

# 旅行業の体系的整理への試み

旅行業を学ぶ人にとっての専門書『旅行産業論』の発刊

公益財団法人日本交通公社 観光経済研究部 研究員

観光政策研究部 主任研究員

柿島あかね  
守屋 邦彦

視点に立つて整理を行った。

## 視点1.. 旅行業と他産業や地域との関わり

現在の旅行業は、地域や企業と一緒に新たな価値を生み出すことによってビジネスにつながっている。

旅行会社と地域との関わりからは、例えばJTBでは人、モノ、文化との交流をきっかけに新たな価値を生み出す「交流文化事業」を推進し、その一環として、地域ならではの資源を掘り起こし、磨き上げることによって旅行商品化する取り組みが行われている。

また、旅行会社と企業との関わりからは、旅行会社が各企業の業務性旅行の手配のみならず、出張関連業務の効率化、コスト削減、危機管理などを総合的に取り扱うことによつて企業の課題解決に貢献しようとする。ビジネスストラテジメンツ(以下、「BTM」)なども存在している。しかし、このようなビジネスが実際に展開されていることは一般にあまり知られておらず、旅行会社が地域や企業に対してどのような価値を

観光は、我が国の経済成長を担う重要な成長分野として期待が寄せられている。人口減少・少子高齢化が進む中、国内の観光需要を喚起するとともに、好調なインバウンド需要を今後も積極的に取り込むことにより、旅行市場規模の拡大と、これによる地域経済の活性化、雇用の増大につながっていくものと考えられる。

このように観光への期待が高まる中、近年では旅行会社が地域や企業と連携して新たな価値を創造するなど、代売にとどまらない幅広いビジネスモデルを展開しており、旅行観光分野において果たす役割も大き

いものと考えられる。また、こうした役割を旅行業が担っていくためには、一般的な業務知識だけでなく、「場面」「時間」「空間」を創り出し、旅行という無形の商品を販売することができる人材が必要となる。

しかし、人材を育成するにあたって欠かせない旅行業に関する書籍を目を向けると、旅行業は観光概論の一部として扱われており、その内容は実務を中心としたものや、「旅行代理店」的機能を解説するにとどまっている内容が多く、今後の旅行業を担う人材に必要である旅行業の構造や旅行業の社会的な役割などにまで踏み込んで言及したものは少ない。

## 旅行業の体系的整理を行うにあたっての3つの視点

現在の旅行業の実態を踏まえ、これまで捉えられていなかった3つの

提供し、ビジネスとして成立しているのかという部分については見えにくいという課題がある。

特に、今後、旅行業を志す学生にとって、業務性旅行やMICEなどは日常的に接する機会も少ないことから、理解が難しいポイントとなる。以上を踏まえ、研究会では「旅行業と他産業や地域との関わり」なども含めたビジネス展開（法人営業、MICE、BTM、インバウンド事業、グローバル事業など）と、これを支える業界構造や戦略モデルについても整理を行った。

## 視点2…旅行業の ビジネスモデル

旅行業がどのような価値を創造しているか、どのような社会的役割を担っているか、どのような収益構造になっているかという「旅行業のビジネスモデル」については、従来あまり整理されてこなかった。かつては代売手数料を主な収益源としていたが、近年では安定的な経営を目的として、外部環境に左右されやすい旅行業だけでなく、他の

事業領域を傘下に入れ、収益源を分散させるなど、ビジネスモデルに変化が起きている。その他、国内の旅行会社各社のビジネスモデル、世界の旅行会社のビジネスモデルの特色などについても整理された例は少ない。

研究会では、旅行業の基本的なビジネスモデルを整理するため、サプライヤーから旅行者に旅行商品が提供されるプロセスにおいて旅行会社が果たす役割や、旅行会社が提供している付加価値などを整理した。またこうした基本的なビジネスモデルを踏まえた上で、現在、旅行業に起きているビジネスモデルの変化や世界の旅行業のビジネスモデルについて市場変化や旅行会社を取り巻く環境などと併せて整理を行った。

## 視点3…旅行業の魅力、将来性

旅行業の人材を確保するためには、旅行業のビジネスとしての「魅力や将来性」を伝えていくことが極めて重要である。特に近年は消費社会の成熟化、社会のグローバル化、ICT（情報通信技術）の発達など、旅行業

界を取り巻く環境は大きく変化しており、こうした環境下における旅行業の存在意義を改めて整理することが重要である。

研究会では、かつての旅行業が旅行業の基本機能である情報提供機能、予約機能、金融決済機能の補助機能から、交流の場を創造する産業にまで発展してきた歴史的経緯やその時点における旅行業の社会的意義を整理し、旅行業の将来性についても議論を行った。

その結果、旅行業は今後、人・産業・地域を結びつける中心的役割を果たし、人的交流や経済循環などの新たな価値を創造することができる産業であることを次世代の旅行業を担う人材に伝えていくことが重要であるという結論に達し、書籍化の際にもこの内容を盛り込むこととした。

## 『旅行産業論』の発行

研究会での3つの視点からの議論を踏まえ、その成果を取りまとめ、発刊したものが『旅行産業論』(写真)である(注)。



目次(表2)からも分かるように、実務的な内容にとどまらず、旅行業全体を学術的かつ俯瞰的視点から論説している点が本書の特徴である。そのため、旅行者から見える旅行業だけではなく、旅行業のさまざまな分野・部門がどのような役割を果たしているかを把握することができ、構成となっている。

また、研究会メンバーは学識経験者、実務経験者で構成されていることもあり、旅行業のビジネスモデルについて解説する教養書のアプローチと、旅行業そのものを分析・考察

表1 立教大学観光学部  
旅行産業研究会 (五十音順)

東 徹 (あずま とおる) 立教大学観光学部観光学科 教授 立教大学観光研究所 所長 立教大学観光ADRセンター 副センター長
柿島 あかね (かきしま あかね) 公益財団法人日本交通公社 研究員
黒須 宏志 (くろす ひろし) 株式会社JTB総合研究所 執行役員 主席研究員
志賀 典人 (しが のりひと) 公益財団法人日本交通公社 会長 立教大学観光学部観光学科 特任教授
庄司 貴行 (しょうじ たかゆき) 立教大学観光学部観光学科 教授
田中 靖 (たなか やすし) 株式会社JTB総合研究所 主任研究員
野口 洋平 (のぐち ようへい) 杏林大学外国語学部 准教授
野々垣 典男 (ののがき のりお) 株式会社JTB情報システム 代表取締役社長 株式会社ジェイティービー 執行役員
橋本 俊哉 (はしもと としや) 立教大学観光学部観光学科 教授
村上 和夫 (むらかみ かずお) 立教大学観光学部交流文化学科 教授
守屋 邦彦 (もりや くにひこ) 公益財団法人日本交通公社 主任研究員

表2 『旅行産業論』目次

第1講	第1章	「旅行・観光産業」とは
	第2章	旅の質的变化と旅行業創生の必然
	第3章	近代的旅行業の始まり
第2講	第1章	旅行業の自立的産業への過程
	第2章	旅行業法の変遷
第3講	第1章	旅行契約形態と旅行商品のバリューチェーン
	第2章	旅行会社にとっての企画旅行商品
	第3章	旅行会社の形態
第4講	第1章	旅行業における商品および経営の特性
	第2章	旅行業における財務の特質
第5講	第1章	マーケットの変遷と現状 (国内旅行) (1990年代~2000年代を中心に)
	第2章	マーケットの変遷と現状 (海外旅行) (1990年代~2000年代を中心に)
第6講	第1章	旅行マーケットの質的变化とその影響
	第2章	旅行マーケットの成熟化とFIT
	第3章	ローコストキャリア (LCC) がもたらす旅行マーケットの変化
第7講	第1章	旅行会社のビジネス展開① 店頭販売の展開と実際
	第2章	旅行会社のビジネス展開② メディア販売
	第3章	旅行会社のビジネス展開③ オンライン・トラベル・エージェント (OTA)
第8講	第1章	旅行会社のビジネス展開④ ビジネストラベルマネジメント (BTM)
	第2章	旅行会社のビジネス展開⑤ 法人営業
	第3章	旅行会社のビジネス展開⑥ MICE
第9講	第1章	インバウンドマーケットの変遷と現状
	第2章	インバウンド事業の実際と課題
第10講	第1章	旅行会社のシステムの概要
	第2章	世界の旅行関連システム
第11講	第1章	グローバル化 (マーケット動向)
	第2章	世界の旅行会社のビジネスモデル
	第3章	日本の旅行会社におけるグローバル事業の実際と将来像
第12講	第1章	業界構造と戦略モデル
	第2章	事業開発戦略の意義と方向性
第13講	第1章	着地型観光/地域交流ビジネス
	第2章	危機管理
	第3章	旅行産業の果たしてきた役割・社会的価値
第14講	第1章	旅行業界が観光の中で果たすべき役割
	第2章	旅行業の未来像と求められる人材

する社会学的アプローチの両面を併せ持つ点も本書の大きな特徴である。以上のような特徴を持つ書籍であることから、旅行業を志す人、旅行業に従事している人以外にも、経営学的な視点で旅行業でのケースを知りたい人にも対応できる内容となっている。

●

最後に、旅行業を志す人、旅行業に従事している人、旅行業を研究対象とする人など、幅広く旅行業に携わる人にとって、本書が旅行業を知る一助となれば幸いである。

なお、本書は旅行業の体系的整理を試みた第一歩としての成果である。そのため、今後の整理にあたっては今回取り上げた内容以外にも旅行業を把握する上で必要な視点も検討し、適宜盛り込んでいくこととしたい。

(かきしま あかね / もりや くにひこ)

(注) 詳細は公益財団法人日本交通公社のホームページをご確認ください。ホームページ内、「出版・シンポジウム」⇒「テーマ別書籍」⇒「総論 ほか」へアクセスすると確認ができます。  
 \* Amazon.co.jpよりプリントオンデマンド (POD) にて販売しています。